

## 2011年 CAVOK ヨーロッパ航海 (Lisbon~ Corsica)

7月1日(金) 晴れ Denia

明日からバレアレス諸島に行くので、出発準備をする。船の甲板洗いをするが、チークデッキはブラシで擦れば擦るほどしみついた垢が出てくる。

スピンハリヤートの径が16mmと太過ぎて、ストッパーの規格14mmを超えていたので14mmのハリヤードに交換した。またバレアレス諸島では、アンカリングの多用を考えているので、予備の水用ポリタンク、食料の買出しをする。お昼は、マリーナのレストランで昨日同様、本日の定食ランチを食べるが、内容も充実して美味しく10ユーロと安かった。因みに、ランチのメインは、マッシュルームソースのチキンヒレソテー、あっさりして且つソースの味が美味だった。

ここも大きなマリーナで、イビザに近いので各国の船が集ってきている。

マリーナ内にあるマリショップの夫婦が親切で、タクシーの手配、必要備品の調達、観光の相談、イビザの情報等、なんでも快くやってくれた。奥さんが我々はサービスがモットーだと胸を張って云っていた。ここにくる機会があれば、是非、一度お寄りすることをお勧めする。

このところ、お昼を遅い時間にしっかり食べているので、夜お腹があまり空かないが、食欲増進のカレーを食べる。

明日の風の予報は南の風 7~ 8M なので、アビームでイビザまで行けそうだ。明朝出港することにする。

7月2日(土) 晴れ/曇り 南 7~ 10m Denia ~ San Antonio 730/1630 55NM

イビザ島サン・アントニオ迄55NMあるので、朝0630に起床して、0730に出港する。朝方は風がなく3時間程機走、10時過ぎより予報通り南風が安定して吹き始めた。時折10mを超える風だったが、船はアビームで快調に7KTを超える速度をキープした。時折9KTを超えることもあったが、この船は腰が重いので安定して気持ちよく帆走した。

先に小さく見えていたヨットにサン・アントニオ港で追いついた。

参考になっているImray社のガイドブックのBerthingの項では、夏のシーズンでは空いたバースは稀にしかないと書いてあったので心配していたが、空バースがあった。前もってインターネットで係留をお願いしてたのだが、返事が無かった。驚いたことに、この係留料は税金込で179ユーロ、夏のハイシーズン料金でローシーズンの3~ 4倍している。明日からは、アンカリングを多用することに決めた。イビザ島も先史時代からの歴史があり、ローマ、ムアー時代の史跡も残り、文化遺産、また島全体の自然が自然遺産になりイビザ島自体が文化、自然の複合世界遺産となっている。久しぶりのセーリングと早起きで疲れたので、昨日のカレーにご飯を炊きカレーライスにして食べ、就寝する。

7月3日(日) 曇り/晴れ 微風 San Antonio ~ Cala Badella 1140/1300 9NM

ノンビリと午前中を過ごし、11時40分に9NM先の入江Cala Badellaを目指す。



この入江はlmary社が出しているガイドブックから、良さそうな入江を探して決めた。珍しく一時的に雨がぱらついたが、すくやみ青空が見えてきた。

風も弱く海面も静かで、海水浴客の岸辺を見ながらノンビリ楽しむ。1時に着いたが、入江の中には狭くブイへのムアリング艇、アンカリング艇と所狭しと錨泊している。CAVOK Vでアンカリングするのは初めてなので、注意深くアンカーを打つ。底は12m位だが、砂か海草なので底を見て砂地に落ちるようアンカーを下ろす。周りに船がいるのでアンカーチェーンも長く出せず、適当な長さで止める。早速、潜りアンカーの効きを確認する。

ゴムボートを降ろして、入江を周遊するが、入江の奥はきれいな砂浜で海水浴客で賑わっていた。

お昼は、船でトマトと鰯のスパゲティーを食べ、食後ブイが空いたので、アンカーチェーンの長さが気になっていたの、ブイにムアリングする。なかなかブイにムアリングできないでいたら、隣のフランス艇がゴムボートで手伝いにきてくれた。感謝、感謝であったが、夕方、彼等が夕食に全員(3人)浜に上っている最中、彼等の艇の走錨を悦子が見つけた。崖の近くにアンカリングしてあったので、岩にぶつかりそうになっていた。早速、ゴムボートでそのヨットに乗込み動かそうと思ったが、鍵がかかっている様子でどうしようもできず動かすのは諦め、彼等を探しに浜に行き、なんとか3人組を見つけて教えた。幸い、スターンの梯子が降りていたので、それで岩をブロックしていた。揚げたアンカーには海草がびっしりついていた。なんとかお昼のお返しができる。

昼食後は、入江で泳いでゆっくり休む。時間の流れを忘れ、至福の時だ。

7月4日 (月) 晴れ Cala Badella



昨夜遅くからうねりと風が若干強くなり、船がかなり揺れてきた。ブイに舫っているが、岸壁が近いので心配で何回か起きて点検した。1回の失敗が命取りになるので、用心、用心である。朝方もうねりは入ってきたが風が治まったので、もう1日ここでのんびりすることにする。お昼は浜に上り、レストランでまたまたランチコースを頼む。メインはチキンのグリルであった。西瓜のデザートまでついて10ユーロだった。

ここは人気のスポットらしく、船の出入りも多い。ヨットで来る人は、家族連れが多く、その次が夫婦で、男同士のグループもいた。またアンカリングの場所が見つからず、そのまま出て行く船もあった。特に夕方9時前、まだ日没前だが2艇入ってきたが、諦めて出て行ったが暗くなってからのアンカリングは大変だなと同情する。

昨日、今日とお昼のランチが効いていたので、夜は残り物を片付ける。

7月5日 (火) 晴れ 微風 Cala Badella ~ Formentera 820/1110 15NM

15NM先のフォルメンテラの錨地に向かう。ここはサピナ港にマリーナがあるが、CAVOK (全長14m)のサイズで、一日270ユーロ、これに税金プラスで300ユーロを超えてしまう。とても泊める気にならず、サピナの脇の大きな錨地にアンカーを下ろす。水深10mだが底がよく見えるので、海草地帯を避けて砂地にアンカーを下ろす。ここは北に開けているだけで、その他の方向は海岸に囲まれ、北以外の風には絶好の錨地だ。今日から明日にかけて南風が強めに吹く予報なので、ここを選んだ。早速潜り、アンカーの状態を確認する。砂地だが食い込んであり、安心した。

午後から南風が10m位吹いてきたが、うねりも入らず静かであった。お昼はスパゲッティ・バロネーズで、心地よい風を浴びながらビールを飲む。この入江の中に、さらに水深の浅い入江があり、小さな漁船、モーターボートが係留してある。その奥が小さなホテルのビーチになっていて、長椅子で日光浴をしている女性が絵になっていた。ゴムボートでビーチに行き、テラスでビールを呑みながら入江の風と景色を楽しむ。

日没は21:22で、入江から丘に沈んでいく夕日がきれいだった。各艇それぞれの夕べをおくっていた。我々は豚肉のソテーとサラダを夕日を見ながら頂く。

7月6日(水)快晴 南8~9m Formentera~Sant Eulalia 1415/1730 17nm

昨日から南風が10m近く吹いているが、海面は静かだ。朝食は、昨日行ったホテルのレストランにゴムボートで食べに行く。ここはサビナ港の近くで陸に上がれば、なんでも揃う。そして錨泊している入江は静かでマリナーに泊めるより快適だ。ただし、水の使用制限と、陸電が使えないのが不便だ。ここは居心地が良く、もう泊りたいところだったが3日間連続して錨泊したので、水の補給も必要となり、混雑しているイビザ港を避け、Sant Eulalia港に行くことにする。

朝、マリナーに電話したところ、満杯なので再度1230に電話くれとのこと、再度電話したら、一時間後にもう一度電話くれとのこと。13時30分過ぎに、3回目の電話でやっと予約が取れた。1415にアンカーを揚げ、北17NM先のサント・エウラリアに南風に乗って、17:30に到着する。到着後、イビザの町にバスで観光と買い物を兼ねて行く。町というより都市だ。エウラリアに戻ってから久しぶりに中華を食べる。北京出身の中国人の店だったが、味が濃かったが海老、タケノコ、椎茸の炒め物、チャーハン等、食べる。食後、イビサ特産のスピリッツHierbas (グラツパの一種)をサービスしてくれた。なかなかの美味で胃がすっきりした。

7月7日(木)快晴 微風 Sant Eulalia~Cala Llamp 1310/1600 12NM

マリナーで水満タン、携帯、パソコンの電池を充電して、今日からの錨泊の準備をしてゆっくり出港する。錨地は、風とうねりによって居心地が変わるので南風が続いたので、今日は北に開いているCala Llampにする。

10艇ほどのヨット、モーターボートがアンカリングしていたが出たり入ったりで、夏のシーズンを感じる。入江は岩壁で囲まれ、周りは人家もなく、全く自然な入江だ。

夜は、地上の明かりもなく満天の星空の中、織姫、彦星の逢瀬が天の川と共に見る事ができた。夕食は、鶏モモとズッキーニ、ニンジン、ジャガイモ、ニンニクのローストを、エリンゲとマッシュルームのソースで頂く。夜はうねりが入り、かなり揺れて走錨が心配で何回か起きて点検した。

7月8日(金)晴れ 北東7~8m Cala Llamp~Sant Vicent 0730/0900 10NM



今日は、マヨレカ島を目指して7時30分に出港する。風は、予報より強い北東の向い風になる。一時間程帆走するが、真向い且つ波も悪く、この状態で50NM走るのはつらいので、早々と引返しを決め、昨日の錨地の裏のサン・ビセントに入る。

同じジャンプから出港したイギリス艇夫婦も我々の後、此処に戻ってきた。

波に叩かれ、しんどかったとのことだ。一日暇になったので、昨日より寝られなかったので惰眠をむさぼり、お昼は上陸してレストランで久しぶりに鰯のグリルを食べる。魚は、胃になじむ。浜は、海水浴客で賑わっている。泳いだ後は、船では節水なので、浜のシャワーでサッパリする。

夜は、昨晚の残りの鶏、野菜のローストを食べる。

アンカリングは、走錨が心配なので、注意深く打つが、打った後、潜って効きをいつも再確認している。透明で10m以上見えるのでアンカーの状態を確認できる。

7月9日(土)曇り 南東4~6m Saint Vicent Santa Ponsa 0700/1600 50NM



朝7時出港、今日は昨日と違い、南東の風、波もなく、また目指すマジヨレ島パルマは東なので片上りになる。

風も、陽が上がるとともに順風になり6~7KTで快調に滑る。当初、パルマ近郊のLas Illetasを目指すが、うねりと風が南東で強くなったので、南に開いているLas Illetasをやめて半島の反対側のSanta Ponsaにする。

大きな湾に囲まれた良い泊地だが、沢山の艇が錨泊しているので、アンカリングの場所を探すのに苦労してアンカリングする。上陸するため、ゴムボートを出したが周りがプライベートビーチで、遠くの浜迄行ってやっと上陸できた。

昨日諦めたイギリス艇が6時頃入ってきて再会する。

夜は、悦子が焼きナスを生姜醤油で食べたいということで、ナス、ズッキーニとソーセージを焼き、ポテトをハムで巻き、ロゼワインで入船、出船を眺めながら頂く。少し暑気あたり気味なので、アルコールを控え、水分を取ることにした。